

1 自己評価

I 評価結果	別紙参照
II 分析・改善方策	別紙参照

2 学校関係者評価委員名

高塚 成信（岡山大学 大学院教育学研究科 特任教授）
青山 新吾（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 准教授）
日下 知章（山陽新聞社専務取締役 ビジネス開発局長 兼 DX 推進本部長）
田野 美佐（本校 PTA 会長）
渡邊 義弘（倉敷市立新田中学校長）
荻野 正樹（倉敷市立南中学校長）

3 学校関係者評価

学校関係者評価委員からの意見

- ・グローバルと英語が直線的に結びつけられていないか。グローバル活動に関して、多様性や広い視点を持てるような取組を実施してほしい。
- ・教員研修や授業改善については実施回数を指標にするのではなく、内容や生徒の理解を指標にすることもできるのではないかな。
- ・生徒対象アンケート「いじめの問題の解決や生徒の人権やプライバシーに配慮した指導が行われている」の生徒の評価が下降している。一方教職員アンケートの値は高い。なぜこれが生じているのか分析をして今後活かしてほしい。この項目は教職員のアンケート結果が「今回は答えられない」への回答が比較的高かった。目立たない数字ではあるが着目することで見えてくることがあるのではないかな。
- ・国際交流への取組は素晴らしい。実際に英語力が伸びたかどうか、例えば英語検定2級の取得者が増えたかどうか等、取組の結果の検証も必要ではないかな。
- ・タイムマネジメント力を高めるために M-PRIDE 手帳の活用を掲げているが、デジタルとアナログの両方の機能をバランスよく活用してほしい。
- ・令和4年度もコロナの影響を大きく受けたが、学校自己評価アンケートの全体平均が高かったのは素晴らしいと思う。特に「入学して良かった」の値が高い。これはきめ細かな指導がなされているからではないかなと考える。
- ・学力向上の取組や海外との交流、進路指導等、部活動の指導やホームページの充実、そして SNS での発信等、きめ細かい指導がなされている。働き方改革がなかなか進まない現状も理解できるが、ポストコロナでは、コロナ時代に始まった新たな取組と、それ以前の取組を取捨選択して働き方改革に結びつけるようにしてほしい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）について

- 「生徒一人一人が生き生きと学び、能力を最大限に伸ばす『魅力ある進学校』」を目指し、4本の柱を設定する。
- 「個に応じた多様な学習指導とキャリア教育計画に基づく進路指導」
 - (1) 個別最適化に対応し、学力を最大限に伸ばす取組
 - (2) 進路実現につながる系統的なキャリア教育プログラムの推進
 - (3) 高い志の育成
 - (4) 国際感覚を養うグローバル活動
 - 「他者との豊かなつながりと自律性を育む生活指導」
 - (1) 生徒が主体的に活躍できる場・仕組みづくり
 - (2) 生徒をエンパワーし、自治能力を高める集団づくり
 - (3) 豊かなつながりを持つ集団づくり
 - 「創立50周年事業と開かれた学校づくりの推進」
 - (1) 時宜を得た情報発信と情報収集
 - (2) 保護者・同窓会・地域・関係機関との連携
 - (3) 創立50周年記念事業の推進
 - PDCA サイクルが機能する協働的な教職員組織
 - (1) 協働的な組織運営
 - (2) PDCA サイクルの確立
 - (3) 業務の ICT 化など、業務の効率化への取組